

第6章 スクラムジェット機が飛び交う時代

「宙光一のブログ」^[17]では2012年1月7日に新たに書庫「スクラムジェット機が飛び交う時代」を設けて

民間用スクラムジェット機が飛び交う時代を想像してみることで、

- ・どんなに世の中が変わるのか
- ・今何がかけているのか
- ・だから今何をしなければならないのか

がクリアになり、スクラムジェット機開発の機運が高まるのではと思います、SF作家や漫画家の真似事をしてみようと思います。

地球上のどの地点(空港)にも1時間で飛んでいけるようになれば1機が何機分にも相当するのだから、必要とされる機体の数は1桁近く少なくなるのでしょうか。

そうと、世界全体である程度亜音速機が生き残ることを考えると、スクラムジェット機は全部で1000機もあれば足りるのかもしれませんがね。つまり、「スクラムジェット機1000機が亜音速機10000機に相当する」と、とりあえず仮定しましょう。

と書き始めました。できるだけ多くの方にスクラムジェット機について関心を持っていただきたいからです。

以下はそれ以降のブログをベースに加筆補充したもので、スクラムジェット機はなぜ必要なのか、スクラムジェット機が飛び交う世の中ではどのようなことが起きているだろうか、といった観点でまとめてみました。

6.1 スクラムジェット機はなぜ必要か

6.1.1 日帰り

「時差の影響を残さずに、つまり、日帰りで少し離れた外国で、食事をしたい、遊びたい、首脳会談を行ないたい」等のニーズは費用対効果を別にすれば、結構あ